KORG

取扱説明書

Ⓙ ②

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

CAUTION
RISK OF ELECTRIC SHOCK
DO NOT OPEN

AVERTISSEMENT:
RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.

注意　感電の恐れあり、キャビネットをあけるな

マークには次のような意味があります。

このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。

このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

⚠警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- **電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。**
- **電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。**

- **次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。**
  ○電源コードやプラグが破損したとき
  ○異物が内部に入ったとき
  ○製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。

- **本製品を分解したり改造したりしない。**

- **修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。**
- **電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。**
  電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**

- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**

- **雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。**
- **本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**

- **濡れた手で本製品を使用しない。**

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。**

- **本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。**
  電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。

- **付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。**
  付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **本製品の隙間に指などを入れない。**
  お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **地震時は本製品に近づかない。**
- **本製品に前後方向から無理な力を加えない。**
  本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめエディターを使用してコンピューター等へセーブしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

真空管について

真空管の寿命は一定ではありません。真空管が切れた場合は、コルグ·サービス·センターへお問い合わせください。真空管の交換を含むあらゆる修理や、その他調整は専門家にご依頼ください。

＊ MIDIは社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

＊ すべての会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

目次

イントロダクション

はじめに

このたびは、**コルグ・ステージ・ヴィンテージ・ピアノ SV-1** をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。SV-1 を使用し、往年のヴィンテージ・ピアノやヴィンテージ・エレクトリック・ピアノのサウンドを十二分にお楽しみください。

SV-1 を末永くお使いいただくためにも、この取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。読み終わったら、取扱説明書をお手元に保管しておいてください。後で読み直すと、前回には気づかなかったヒントが見つかるかもしれません。

このガイドは、SV-1 の 88 鍵と 73 鍵の両方を対象としています。鍵盤数、外形寸法、質量を除けば、この 2 つの製品に違いはありません。

パッケージの確認

お買い上げの SV-1 の梱包箱に以下のものが入っていることをお確かめください。

- SV-1
- 取扱説明書（本誌）
- アクセサリー・ディスク（ソフトウェア等が収められています）
- 譜面立て
- コルグ DS-2H ダンパー・ペダル（ハーフ・ペダル対応）
- 電源コード

おもな特長

さまざまなヴィンテージ・サウンド

- SV-1 は、グランド・ピアノやヴィンテージ・エレクトリック・ピアノに、ヴィンテージ・アンプ、ストンプボックス（ペダル・エフェクト）、スタジオ・エフェクト・シミュレーターを組み込んだ楽器です。
- SV-1 には、2 つのステレオ・コンサート・グランド・ピアノなど、さまざまな音色が用意されています。音色をエディットしたら、フェイバリットとして本体に保存することができます。

簡単操作で楽しく演奏

- サウンドの選択は、ノブでサウンド・タイプを選択してから、別のノブでそのバリエーションを選ぶという簡単な操作です。
- グランド・ピアノと同じ原理を持つリアル・ウェイテッド・ハンマー・アクション 3（RH3）鍵盤を使用しています。低音部ではより重く、高音部ではより軽いタッチになるようにハンマーを 4 段階の重さに分けているため、グランド・ピアノと同じような、

リアルな弾き心地を楽しむことができます。また打鍵の強弱による音色の違いを、8 種類のタッチ・カーブから選択することができます。
- 8 種類のチューニング・カーブにより、ヴィンテージ・エレクトリック・ピアノやグランド・ピアノの調律を再現することができます。
- トランスポーズ機能で移調を、ピッチ・コントロール機能で基準ピッチの微調整を行うことができます。

充実したペダル機能

- SV-1 には、グランド・ピアノと同様に 3 つのペダルを接続することができます。また、このペダルを使って、ボリューム、ロータリー・スピーカーのスピード、ワウの音色変化を足元でコントロールすることができます。ペダルでコントロールするエフェクト・パラメーターがあらかじめ割り当てられているため、新たに設定する必要はありません。
- ダンパー・ペダルでは、アコースティック・ピアノが生み出す弦の自然な共鳴や、ダンパーの位置が移動するときに聞こえるかすかな物理音までもシミュレートします。さらに、ペダルを踏み込む深さで、ダンパーのかかり具合を変化させることができます（「ハーフ・ペダル」機能）。

Valve Reactor とモデリング・テクノロジー

- SV-1 には、Valve Reactor 技術が採用されています。これは、本物の真空管を用いて往年のチューブ・アンプ・サウンドを作り出し、オリジナル・アンプのような反応や音色を再現します。
- SV-1 は、最先端のモデリング・テクノロジーにより、クラシック・アンプ、キャビネット、エフェクトを駆使したサウンドを実現します。これらを組み合わせると、バラエティ豊かな音を作り出すことができます。

高品位のヴィンテージ・エフェクト

- SV-1 には高品位のエフェクトが組み込まれているので、本機だけでサウンドを完成させることができます。ペダル・エフェクト、アンプ・モデル、モジュレーション・エフェクト、リバーブ / エコー / ディレイ・エフェクトのタイプを 1 つずつ選び、それぞれを同時に使うことが可能です。
- SV-1 のパネル上の各種ボタンで、タップ・テンポによるディレイ・タイム設定、エフェクトのオン / オフ、ロータリー・スピーカーの回転スピード（ファースト / スロー）を切り替えることができます。ライブ・パフォーマンスには欠かせない機能です。

簡単な接続

- USB デジタル・インターフェイス、MIDI IN、OUT 端子を備えているので、システムの拡張やいろいろな使用方法が考えられます。この USB 端子は MIDI データもやり取りできるので、USB ケーブルが 1 本あれば SV-1 をコンピューターと接続することができます。MIDI インターフェイスなどは不要です。また、SV-1 の MIDI 機能をフルに活用できる、専用の KORG USB-MIDI Driver が無償で提供されます。このドラ

イバは、付属のアクセサリー・ディスクに収録されています。また、コルグ・ホームページからダウンロードすることもできます。

- LOCAL OFF ボタンを備えていますので、ボタンを押すだけでローカル・オフが設定でき、簡単に SV-1 をシーケンサー操作時のマスター・キーボードとして使用することができます。

エディット機能の強化

- 本機は、簡単にエディットできるように設計されていますが、SV-1 エディターでは細かなエディットが可能です。このソフトウェアを使用すると、独自のサウンド、アンプ設定、およびエフェクト・モデル設定を、サウンドやフェイバリットとして SV-1 に保存することができます。コンピューターにはライブラリを保存することが可能で、自分のサウンドやフェイバリットを他の SV-1 ユーザーと交換することができます。SV-1 エディターは、付属のアクセサリー・ディスクに収録されています。また、コルグ・ホームページからダウンロードすることもできます。

Real eXperience

かつてないサウンド体験

SV-1 のサウンドの特長であるコルグの **Real eXperience**（リアル・エクスペリエンス）技術は、豊かなリアル・サウンドを実現します。これまでのサンプリング技術をオーディオの「スナップ写真」とすると、Real eXperience 技術は「ホログラム」により近く、サウンドの各次元を詳細かつ正確に再現します。グランド・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、クラビ系楽器の音は、本物のイメージをそのままに、ハンマー音および実際のリリース音も含めてサンプリングされています。また、楽器の表現力を高めるために、ダイナミクスについても複数のレベルでキャプチャーしました。

例えば SV-1 のグランド・ピアノ音色では、鍵盤を離したときの音や、ハンマーが戻る音、弦のダンパーの共鳴などを再現し、演奏の微妙な陰影までも表現します。こうした細部へのこだわりが SV-1 のサウンドの特長です。プレーヤーのタッチに込められたニュアンスをとらえ、演奏の意図を的確に表現できます。

この方式は、他の音色についても同じです。例えば、エレクトリック・ピアノ、クラビ系楽器、オルガンでは、リアルな響きが再現され、どの音色も本物の楽器とまったく同じように指のタッチに反応し、ステージでのパフォーマンスを引き立てます。

このように SV-1 では、アコースティック・ピアノやエレクトリック・ピアノなどが持つ、直接音以外の細部にわたる音の素材を「RX ノイズ」として収録しました。この RX ノイズを、例えばピアノの弦を叩いたときの直接音とミックスして出力することにより、リアルなサウンドを忠実に再現します。

VALVE REACTOR 技術とは

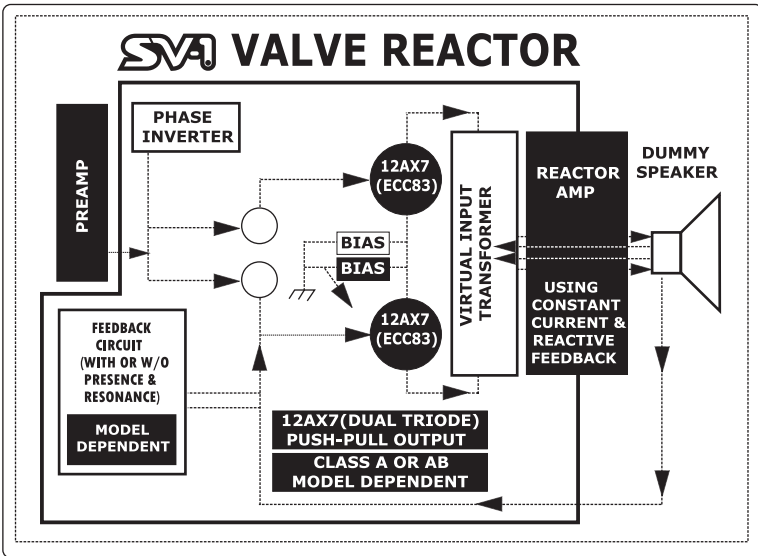
パワー・アンプで引き立つライブ・サウンド

SV-1 は、**Valve Reactor 回路**をライン接続用にチューンナップしたシステムを搭載しています。

通常のライン接続用のモデリング・エフェクトは、実際には直接スピーカーを接続して使用することが無いため、パワー・アンプ回路、アウトプット・トランスおよびスピーカーは省かれています。つまり、プリアンプ回路のみで構成されています。

しかし、本当の真空管アンプ・サウンドは、プリアンプのみでなくパワー・アンプの歪みや実際にパワー・アンプがスピーカーを駆動する際に発生するインピーダンス変動によって作り出されます。

SV-1 は、実際に低いワッテージのチューブ・パワー・アンプ回路とアウトプット・トランスをソリッド・ステート部品でエミュレートしたバーチャル・アウトプット・トランス、それにスピーカーのインピーダンス変動をシミュレートしたダミー・スピーカー回路を搭載しています。つまり、出力パワーは小さいながらも、実際のフル・チューブ・アンプと同じ回路構造になっています。

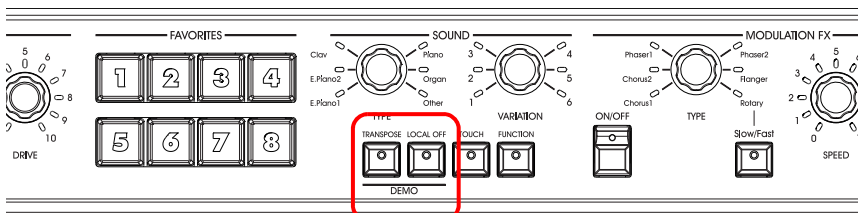
これは、ライブ演奏で威力を発揮します。本機からメイン・ミキサーに送られるサウンドは、高品位マイクでアナログ・アンプから集音したかのようにリアルです。

デモ・ソングを聴いてみよう

36 曲のデモ・ソングが収録されています。サウンドごとに、その音色に合ったデモ・ソングが用意されています。デモ･ソングを聴いて、それぞれのサウンドを確認してみましょう。

1. TRANSPOSE ボタンと LOCAL OFF ボタンを同時に押します。
それぞれのボタンのランプが点滅します。

このまま何も操作しないときは、すべてのデモ・ソングが順番に再生されます。

2. 任意のデモ･ソングを選択するときは、SOUND セクションの TYPE ノブと VARIATION ノブを回します。
ノブの操作でサウンドが選ばれ、その音色を使ったデモ・ソングが始まります。

3. デモ･ソングの再生を止めるときは、TRANSPOSE ボタンと LOCAL OFF ボタンを同時に押します。

各種コントロールと端子

フロント・パネル

ここでは、SV-1 のフロント・パネル上のノブやボタン等について説明します。

1　真空管

SV-1 の内部には、真空管 12AX7（ECC83）が搭載されています。

アンプ・モデルを有効にすると、この真空管を含むアンプ・シミュレーター回路が使用されます。

> WARNING: 真空管カバーや真空管は、衝撃を受けると割れることがあります。真空管カバーが割れた場合は必ず交換してください。そのままにしておくと、真空管自体が割れる可能性が高くなり非常に危険です。

2　MASTER VOLUME ノブ

SV-1 の全体的な音量を設定します。

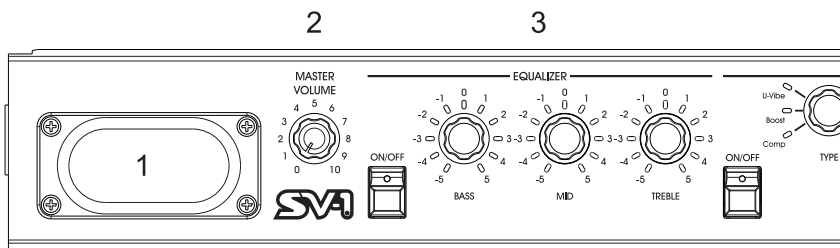
ノブを時計方向に回すと音量が上がり、時計と反対方向に回すと音量が下がります。このノブで本機全体の音量が調整され、左右の出力端子とヘッドホン端子の音量も変わります。

> WARNING: 音量は必ず適切なレベルにしてください。大音量は聴覚を損なう原因になるおそれがあります。

3　EQUALIZER セクション

イコライザーを設定します。

BASS ノブ、**MID ノブ**、**TREBLE ノブ**で、3 バンド・イコライザーを操作し、全体的な音色を調整します。

初期値に戻すときは、該当する帯域のノブを押します。

4　PRE FX セクション

ペダル･エフェクトを設定します。SV-1 では、6 種類のペダル･タイプが用意されています。

TYPE ノブでペダル・タイプを選択し、**SPEED ノブ**と **INTENSITY ノブ**でペダル・タイプのパラメーターを調整します。調整したパラメーターを初期値に戻すときは、該当する SPEED または INTENSITY ノブを押します。
ペダル・タイプに VOX Wah（VOX ワウ）を選択した場合は、**Auto/Pedal ボタン**を使用することができます。
詳しくは、「エフェクトの選択とエディット」の手順 3（p.22）を参照してください。

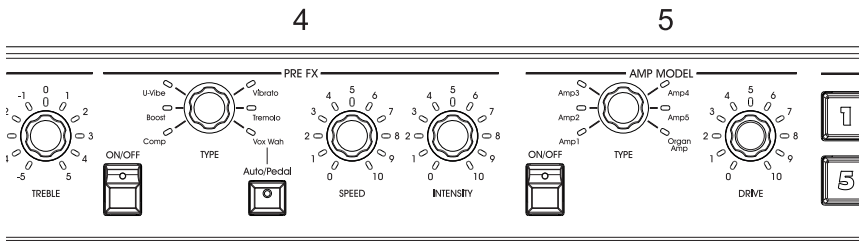
ペダル・エフェクトは、アンプの前に配置されます。

5　AMP MODEL セクション

アンプ・モデル（キャビネットを含む）を設定します。往年の名機 VOX AC30TBX など、6 種類のクラシックなアンプ・モデルが用意されています。

TYPE ノブでアンプ・モデルを選択し、**DRIVE ノブ**でアンプ・モデルのパラメーターを調整します。DRIVE ノブでは、プリアンプ・ボリューム（つまりオーバードライブのサチュレーション）を調整することができます。調整したパラメーターを初期値に戻すときは、DRIVE ノブを押します。
詳しくは、「エフェクトの選択とエディット」の手順 4（p.23）を参照してください。

プリアンプとパワー・アンプの動作特性、トーン・コントロールの反応、回路内の配置は、ここで選択したアンプ・タイプによって変わり、オリジナル・アンプのゲインとトーンの特長が表れます。非常に重要な役割を果たすパワー・アンプの動作（A 級または AB 級）、そして負帰還回路特性（あり、またはなし）も厳密にシミュレートされます。

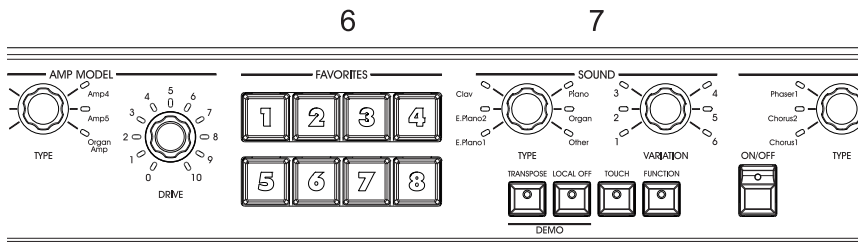
各アンプ・モデルには、キャビネット・シミュレーターも含まれていますが、キャビネットのエディットは、SV-1 エディターで行います。

6　FAVORITES セクション

FAVORITES ボタンの 1 ～ 8 を押して、あらかじめ保存されている**フェイバリット**を選択することができます。また、エディットした音色は、フェイバリットとして、SV-1 に 8 つまで保存することができます。
フェイバリットの保存方法は、「フェイバリットの保存」(p.34) を参照してください。

7　SOUND セクション

36 の**サウンド**をから 1 つを選択します。

TYPE ノブで 6 つのサウンド・タイプから 1 つを選択し、**VARIATION ノブ**では各サウンド・タイプで用意されている 6 つのバリエーションから 1 つを選択します。
サウンド選び方は、「サウンド」(p.17) を参照してください。

NOTE: サウンドを SV-1 へ保存するときは、SV-1 エディターで行います。

8　TRANSPOSE ボタン

このボタンでキーを変更（移調）します。詳しくは、「トランスポーズ」（p.25）を参照してください。

9　LOCAL OFF ボタン

ローカル・オフ機能を無効（ローカル・オン）または有効（ローカル・オフ）にします。

ローカル・オン（ボタンのランプが消灯）のときは、鍵盤を弾くと内部音源が鳴り、同時に MIDI データを送信します。通常はローカル・オンに設定します。
ローカル・オフ（ボタンのランプが点灯）のときは、鍵盤と内部音源の接続が切られるため、鍵盤を弾いても SV-1 の音源は発音しません。このとき、MIDI データは MIDI OUT 端子（または USB 端子）から送信されます。コンピューターなどで MIDI データを受信した場合、エコー・バック（コンピューターが受信した MIDI データを、SV-1 の MIDI IN 端子または USB 端子に送信すること）を設定したときは、SV-1 をローカル・オフに設定します。これによって、二重に発音することなく、演奏とレコーディングを同時に行うことができます。

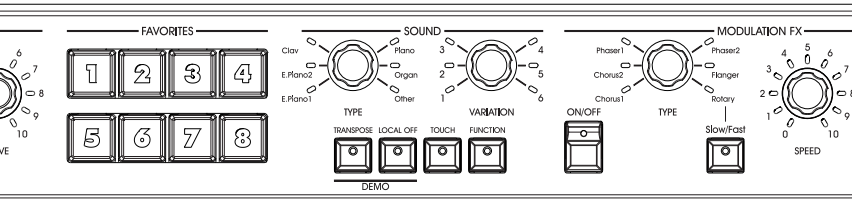
10　TOUCH ボタン

鍵盤のタッチの感度を調節します。
詳しくは、「鍵盤のタッチ・コントロールを変更する」（p.28）を参照してください。

11　FUNCTION ボタン

このボタンを押した後にノブやボタンなどを操作して、ピッチや MIDI チャンネルの設定を行ったり、RX ノイズのボリュームを調節したり、初期設定に戻したりします。

FUNCTION ボタン後に操作するノブ類	
TREBLE ノブ	ピッチの微調整。「ピッチ・コントロール」（p.26）を参照。
BASS ノブ	RX ノイズのボリュームの調節。「RX ノイズのレベルの調整」（p.31）を参照。
FAVORITES ボタン 1 ～ 8	チューニング・カーブの選択。「チューニング・カーブを選ぶ」（p.27）を参照。
鍵盤の C6 ～ D#7	MIDI チャンネルの選択。「MIDI チャンネルの設定」（p.32）を参照。

8　9　10　11

12 MODULATION FX セクション

モジュレーション・エフェクトを設定します。6 種類のモジュレーション・タイプが用意されています。

TYPE ノブでモジュレーション・タイプを選択し、**SPEED ノブ**と **INTENSITY ノブ**で、モジュレーション・タイプのパラメーターを調整します。調整したパラメーターを初期値に戻すときは、該当する SPEED または INTENSITY ノブを押します。
モジュレーション・タイプに Rotary（ロータリー・エフェクト）を選んだときは、**Slow/Fast ボタン**でモジュレーションのスピードを切り替えることができます。
詳しくは、「エフェクトの選択とエディット」の手順 5（p.23）を参照してください。

モジュレーション・エフェクトは、アンプ・モデルの後ろに配置されます。

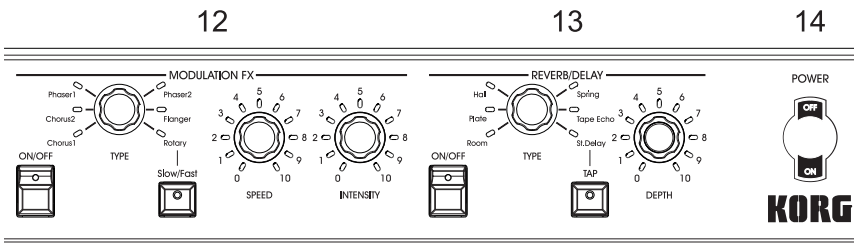
13 REVERB/DELAY セクション

リバーブ、ディレイ、エコー・エフェクトを選択します。4 種類のリバーブ・タイプ、それぞれ 1 種類のディレイ・タイプ、エコー・タイプが用意されています。

TYPE ノブでエフェクト・タイプを選択し、**DEPTH ノブ**でエフェクトのかかり具合を調整します。調整したパラメーターを初期値に戻すときは、DEPTH ノブを押します。
エフェクト・タイプに St.Delay（ステレオ・ディレイ・エフェクト）を選んだときは、**TAP ボタン**でディレイ・タイムを設定することができます。
詳しくは、「エフェクトの選択とエディット」の手順 6（p.24）を参照してください。

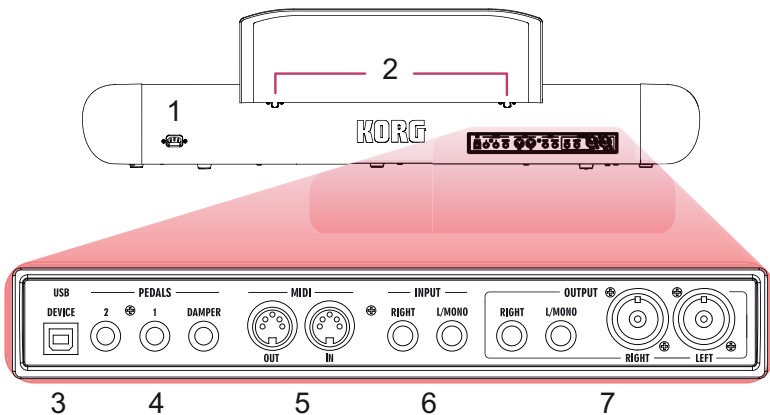
リバーブ、ディレイ、エコー・エフェクトは、アンプ・モデル、モジュレーション・エフェクトの後ろに配置されます。

14 POWER スイッチ

電源のオンとオフを切り替えます。

15 ヘッドホン端子（ステレオ）

キーボードの左端にあるこの端子にヘッドホンのプラグを接続します。
このときは、OUTPUT 端子からも音が出力されます。

リア・パネル

リア・パネルには、接続端子が配置されています。

1 AC IN 端子

付属の電源コードを接続します。

2　譜面立て用穴

SV-1 には、譜面立てを付属しています。譜面立ての足の部分を、2 つの譜面立て専用穴に差し込んでください。

3　USB 端子（Type B）

この端子は、コンピューターに接続（MIDI ポートを兼用）してシーケンサーを使用したり、SV-1 エディターで細かく編集したりするときに使用します。この端子を使用するときは、あらかじめ KORG USB-MIDI Driver をインストールしてください。MIDI ドライバは付属のアクセサリー・ディスクに収録されています。また、コルグ・ホームページからダウンロードすることもできます。

4　ペダル端子（ダンパー、1、2）

付属のコルグ DS-2H ダンパー・ペダル、その他別売のフット・スイッチやエクスプレッション / ボリューム・ペダルを接続します。フット・スイッチやエクスプレッション / ボリューム・ペダルを使用するときは、あらかじめペダルの感度を調整してください（「ペダルのキャリブレーション」（p.29）を参照。）。

- **ダンパー端子 :** 付属のコルグ DS-2H ダンパー・ペダルは、この端子に接続してください。
  この端子に接続したペダルは、ダンパー・ペダルとして機能します。
- **ペダル端子 1:** フット・スイッチ（別売オプションのコルグ PS-1 ペダル・スイッチなど）を接続します。
  この端子は、ソステヌート・ペダルとして使用することができます。また、ロータリー・エフェクトを選択している場合は、ロータリー・スピードの低速と高速とを切り替えるスイッチとして使用することもできます。
- **ペダル端子 2:** エクスプレッション / ボリューム・ペダル（別売オプションのコルグ XVP-10 エクスプレッション / ボリューム・ペダル、EXP-2 フット・コントローラーなど）、またはフット・スイッチ（別売オプションのコルグ PS-1 ペダル・スイッチなど）を接続します。
  SV-1 の初期設定では、エクスプレッション / ボリューム・ペダルは、ボリューム・コントロールとして機能します。フット・スイッチは、ソフト・ペダルとして動作します。エクスプレッション / ボリューム・ペダルがこの端子に接続されている場合は、ワウのフィルターをコントロールすることもできます。そのときは、ワウを選択し、PRE FX セクションの Auto/Pedal ボタンのランプを点灯させます。

5　MIDI 端子

MIDI を使用すると、シーケンサーから SV-1 をコントロールしたり、SV-1 から外部 MIDI デバイスを操作したりすることができます。

SV-1 で外部 MIDI デバイスを操作する場合、またはシーケンサーにレコーディングする場合は、LOCAL OFF ボタンを押してランプを点灯させます。

- **MIDI OUT 端子** : MIDI データを送信します。この端子は、接続した外部 MIDI デバイスまたはコンピューターをコントロールする場合に使用します。標準 MIDI ケーブルを使って、他のデバイスの MIDI IN 端子に接続します。
- **MIDI IN 端子** : MIDI データを受信します。この端子は、接続した外部 MIDI デバイスまたはコンピューターから SV-1 をコントロールする場合に使用します。標準 MIDI ケーブルを使って、他のデバイスの MIDI OUT 端子に接続します。

6　INPUT 端子（L/MONO、RIGHT）

キーボード、シンセサイザーなどの外部音源のライン出力や、CD、MP3 プレーヤーのオーディオ出力をこの端子に接続します。

この端子からの入力は、SV-1 の OUTPUT 端子から出力され、SV-1 がミキサーのような役割をします。このとき、接続した機器の音量は、それぞれの機器で調整してください。

7　OUTPUT 端子（L/MONO、RIGHT、XLR の LEFT、RIGHT）

アナログ出力端子です。1/4 インチのアンバランス端子か、XLR バランス端子のどちらかを利用できます。

ケーブルが短い場合は 1/4 インチ・アンバランス端子、ステージ演奏などで長いケーブルを使用する場合は XLR バランス端子を使用することをお勧めします。

モノラル出力が必要な場合は、L/MONO の 1/4 インチ端子のみを接続します。XLR 端子をモノラル出力に使用することはできません。

HINT: XLR バランス出力の方が明瞭で音量も大きいので、XLR 端子を使用することをお勧めします。

接続

ここでは、SV-1 をオーディオ・アンプ、ペダル、MIDI デバイスに接続する方法について説明します。

1. SV-1 と、接続するすべての機器の電源を切ります。

NOTE: 接続する前に、各機器の電源を必ず切ってください。電源が入ったまま接続すると、スピーカーがダメージを受けることがあります。

2. SV-1 をミキサーまたはスピーカー・システムに接続する場合は、SV-1 の OUTPUT 端子をミキサーまたはスピーカー・システムのライン入力端子に接続します。
モノラルで接続する場合は、SV-1 の OUTPUT 端子の L/MONO を使用します。

HINT: SV-1 の音色を最大限に生かすためには、ステレオで接続することをお勧めします。

ヘッドホンを使う場合は、ヘッドホンのプラグをヘッドホン端子に接続します。

NOTE: ヘッドホン端子を接続しても、OUTPUT 端子からは音が出力されます。ヘッドホンだけから音を聞こえるようにするときは、SV-1 を接続している機器の電源を切るか、その機器のボリュームを下げてください。

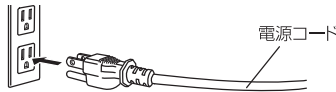
3. SV-1のフロント・パネルにあるMASTER LEVELノブを左に回し、ボリュームを「0」にします。

4. 付属の電源コードを SV-1 のリア・パネルにある AC IN 端子に接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

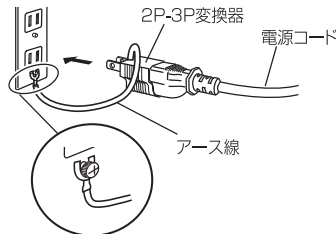
NOTE: 電源は必ず AC100V を使用してください。

接地極付きコンセントに接続する場合

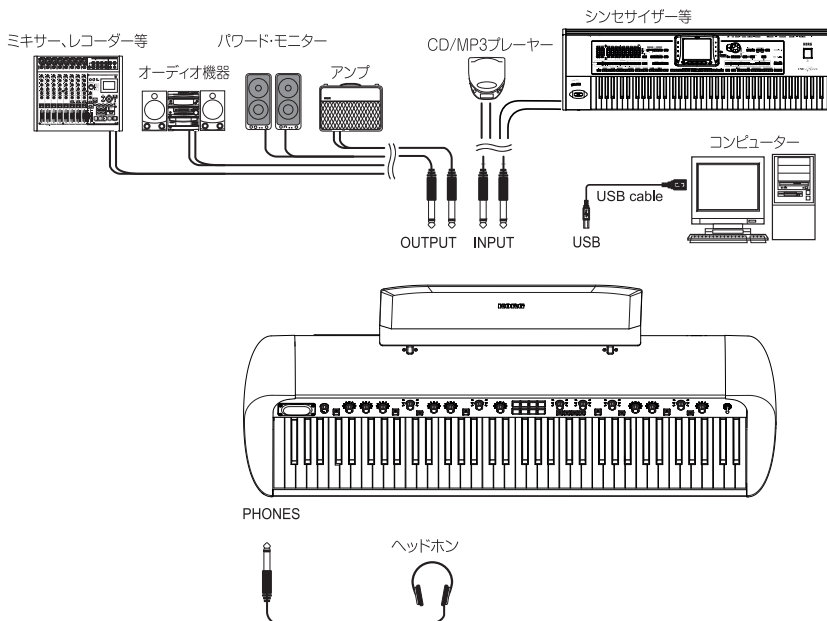
接地極付きコンセントに、電源コードのプラグをそのまま差し込んでください。

接地極付きコンセント

アース端子付きコンセントに接続する場合

電源コードのプラグに、2P-3P 変換器を取り付けます。そして、コンセントのアース端子にアース線を接続し、2P-3P 変換器のプラグを差し込みます。

NOTE: アース接続は、コンセントにプラグを差し込む前に行ってください。また、アース接続を外すときは、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

2P-3P 変換器のアース線の U 字端子にカバーが付いている場合は、カバーをはずして使用してください。

5. リア・パネルのペダル端子にペダル類を接続します。

6. 必要であれば、SV-1 とコンピューター等の機器を MIDI ケーブルまたは USB ケーブルで接続したり、SV-1 のリア・パネルにある INPUT 端子に CD/MP3 プレーヤーまたはシンセサイザーを接続したりします。

7. SV-1 の POWER スイッチをオンにします。

8. ミキサーまたはスピーカー・システムの電源を入れます。

9. ミキサーまたはスピーカーのボリュームを上げ、SV-1 の MASTER VOLUME ノブでボリュームを調整します。

SV-1 の操作方法

ここでは SV-1 の音色の選択と、エフェクトのエディット、エディットした音色の保存について説明します。

音色の選択

工場出荷時には、36 種類の**サウンド**（6 つのサウンド・タイプ × 6 つのバリエーション）が用意されており、その中から 8 種類サウンドを**フェイバリット**として保存されています。

サウンド

36 種類のサウンドは、幅広い音色を網羅しており、各種ヴィンテージ・エレクトリック・ピアノ、グランド・ピアノ、メタリックなピアノ、豊かな響きを持つオルガンなど、さまざまな音色が用意されています。

サウンドを選択するときは、**SOUND セクション**の **TYPE ノブ**を回してサウンド・タイプを選びます。そして、**VARIATION ノブ**を回して、その中のバリエーションを選択します。ノブの周囲にあるランプが点灯し、選択したサウンド・タイプとバリエーションを示します。

例えば、「Piano/Strings」という音色を選択する場合は、以下の手順に従います。サウンドの内容については、「サウンド・リスト」（p.18）を参照してください。

1. LOCAL OFF ボタンとFUNCTION ボタンのランプが点灯していないことを確認します。
ランプが点灯している場合は、点灯しているボタンを押してランプを消灯します。

2. SOUND セクションの TYPE ノブを回し、**Piano** を選択します。
TYPE ノブの Piano のランプが点灯します。

3. SOUND セクションの VARIATION ノブを回し、**5** を選択します。
Piano/Strings が選択され、VARIATION ノブの 5 のランプが点灯します。

サウンド・リスト

#	Name	TYPE ノブ	VARIATION ノブ	RX	
1	Tine EP/Amp	E. Piano 1	1	✓	弦と同様の働きをするタイン / トーン・バー機構を持つエレクトリック・ピアノの代表的なモデル。ギター・アンプを通した 70 年代のサウンドの 1 つ。
2	Tine EP/Phaser		2	✓	フェイザー・エフェクトを加えたタイン / トーン・バーのエレクトリック・ピアノ。数限りない多くのロックやソウル・ミュージックの名演でも有名。
3	Tremolo EP		3	✓	ステレオ・トレモロ・エフェクトに特長のある、もう 1 つの代表的なセッティングのタイン / トーン・バーのエレクトリック・ピアノ。
4	Dyno EP		4	✓	70 年代後半から 80 年代にかけてポピュラーな改造モデルで、金属的なアタック音と透明感のあるシャープなサウンド。
5	VPM Piano		5		80 年代中期以降ポピュラーとなった、デジタル・シンセサイザーのエレクトリック・ピアノ。
6	VPM Tine		6		よりエッジの効いた音色バリエーションを持つ、デジタル・シンセサイザーのエレクトリック・ピアノ。
7	Reed EP 1	E. Piano 2	1	✓	60 年代から 70 年代にかけて発売された、独特の響きを持つ、ファンキーでアーシーなエレクトリック・ピアノ。
8	Reed EP 2		2	✓	リード機構を持つエレクトリック・ピアノ。エフェクト・セッティングにより、最も代表的なサウンドを再現。
9	Electric Grand		3	✓	70 年代中期に発売された、アコースティック・ピアノに非常に近い構造を持つモデル。
10	SG-1D Piano		4	✓	コルグのサンプリング・ピアノの代表的モデル。深い低音、ブライトな高音、自然なダイナミクスが特長。
11	80's Piano		5		80 年代後半に発表された、有名なシンセサイザー・メーカーによる正確で表現力豊かなピアノ・サウンド。
12	MIDI Grand		6		80 年代、90 年代に数多くのヒット・ソングに使用された、有名なレイヤー・サウンド。アコースティック・ピアノとエレクトリック・ピアノをミックスし、少しスパイスをブレンドした、バラードに最適なサウンド。
13	Clav AC	Clav	1	✓	当初、ポータブル・ハープシコードとして発表されたモデル。その特長のあるサウンドは、スタンダードなキーボード・サウンドの 1 つとなった。
14	Clav BC		2	✓	オリジナル・モデルのスイッチ B と C の組み合わせによるサウンド。70 年代の有名なファンク・チューンにより確立された Clav を代表するサウンドの 1 つ。
15	Clav BD		3	✓	スイッチ B と D の組み合わせによるサウンド。
16	Clav AD		4	✓	スイッチ A と D の組み合わせによるサウンド。
17	ElectroPno		5	✓	60 年代に製造された、ユニークなメカニック構造のエレクトリック・ピアノ。独特なそのソフトな音色で、セッション・キーボーディストの間で人気があったモデル。
18	ElectraPno		6		70 年代に人気のあったエレクトリック・ピアノ。多くのロック、プログレッシブ・ロックのキーボーディスト達が使用。

#	Name	TYPE ノブ	VARIATION ノブ	RX	
19	Grand Piano 1	Piano	1	✓	日本製のグランド・ピアノをサンプリング。ポップスやジャズに最適なアコースティック・ピアノ・サウンド。
20	Grand Piano 2		2	✓	ドイツ製の最も有名なグランド・ピアノを正確にサンプリング。ジャズ、クラシックに最適な、アコースティック・ピアノ・サウンド。
21	Mono Grand		3	✓	ドイツ発グランド・ピアノのモノラル・バージョン。ロックかポップ・ミュージックに最適。
22	Upright		4	✓	独特な音色を持つ、ドイツ製のアップライト・ピアノ。
23	Piano/Strings		5		アコースティック・ピアノとストリングスをミックスしたサウンドで、バラードに最適。
24	Piano/Pad		6		アコースティック・ピアノに暖かみのあるシンセ・サウンドを加えた、スタンダードなレイヤー・サウンド。
25	Click Tonewheel	Organ	1	✓	最もスタンダードなオルガン・サウンドで、ロック、ジャズには必修となっている。
26	Jazz Tonewheel		2	✓	特に、ジャズ、ファンク・チューンに最適なセッティング。
27	Full Tonewheel		3	✓	いわゆる、フル・ドローバー・セッティングの、トーン・ホイール・オルガンのサウンド。
28	Console Organ		4	✓	アメリカ製のチューブ・オルガンの代表的なサウンド。伝説的なロック・キーボーディストの 1 人、Garth Hudson の数々の名演奏で有名。
29	Italian Combo		5	✓	60 年代後期に制作された、イタリア製オルガン。その独特なサウンドは、数多くのロック・バンドで使用された。
30	Vox Combo		6	✓	VOX コンチネンタル・サウンドを完璧に再現。60 年代初期のトランジスタ回路を持つコンボ・オルガンの代表的モデル。
31	Full Strings	Other	1		暖かみのあるきめ細かい表現力を持つオーケストラ・サウンド。
32	Tape Strings		2		60 年代後半から 70 年代のプログレッシブ・ロック・バンドにおいて、トレード・マーク的存在となったテープ再生式サンプラーのストリングス・サウンド。そのユニークなサウンドは人気が高く、現在でも使用される。
33	70s Strings		3		スタンダードなストリングス・サウンド。特に 70 年中後期の数多くのレコーディング使用された。
34	Choir		4		男声、女声ミックスのクワイアー・サウンド。
35	Synth Brass		5		暖かく表現力のある、誰もが知っているシンセ・ブラスの代表的なサウンド。
36	Sharp Brass		6		80 年代のロック・チューンからの躍動感あるシンセ・サウンド。

＃：プログラム・チェンジ番号に対応しています（数字は 1 から始まります。0 から始まるシーケンサーの場合は、1 を引いてください）。

RX: RX ノイズが含まれることを表します。

フェイバリット

工場出荷時には、8 種類のサウンドがフェイバリットとして保存されています。

このフェイバリットは書き替えることが可能です。サウンドをエディットして気に入った音色に仕上がったときは、フェイバリットとして、SV-1 に 8 つまで保存することができます。詳しくは、「フェイバリットの保存」（p.34）を参照してください。

1. FAVORITES ボタンの 1 ～ 8 を押します。
あらかじめ保存されている**フェイバリット**が選択され、ボタンのランプが点灯します。

フェイバリット・リスト

#	PC	Name	TYPE ノブ	RX	#	PC	Name	TYPE ノブ	RX
1	37	Grand Piano 1	Piano	✓	5	41	Clav AC	Clav	✓
2	38	Grand Piano 2	Piano	✓	6	42	Click Tonewheel	Organ	✓
3	39	Tine EP/Amp	E.Piano 1	✓	7	43	Full Strings	Other	
4	40	Reed EP 1	E.Piano 2	✓	8	44	Sharp Brass	Other	

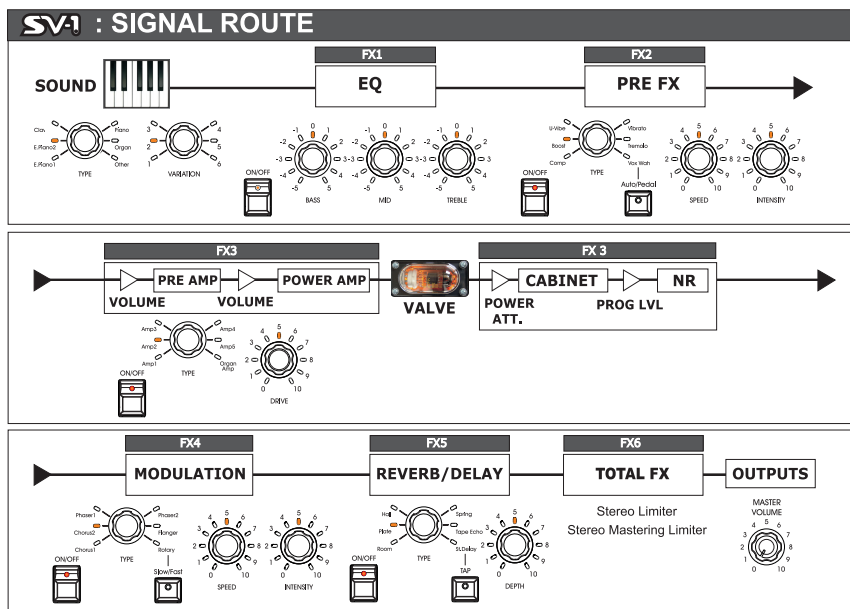
PC: プログラム・チェンジ番号に対応しています（数字は 1 から始まります。0 から始まるシーケンサーの場合は、1 を引いてください）。

RX: RX ノイズが含まれることを表します。

エフェクトの選択とエディット

各セクションの TYPE ノブを回すと、さまざまなエフェクト・タイプとアンプ・モデルを選択することができます。

INTENSITY、DRIVE、SPEED、DEPTH の各ノブでは、エフェクトの主だったパラメーターの設定を変更することができます。より細かくエディットするときは、SV-1 エディターを使用します。ON/OFF ボタンを押すと、エフェクト・タイプとアンプ・モデルをオンまたはオフにすることができます。

SV-1 は、さまざまなエフェクトを連結（エフェクト・チェイン）し、その効果を試すことができます。通常、エフェクト・チェインの先頭には、最もインパクトの強いプリアンプ・エフェクトを配置し、エフェクト・チェインの最後には、いちばん穏やかな、音色を落ち着かせるエフェクトを配置します。このエフェクト・チェインの考え方は、クラシックなアンプのエフェクト・チェインとまったく同じです。

NOTE: エフェクトによっては、エディットする実際のパラメーター名が、本機のパネルに印字されているものとは異なる場合があります。SV-1 エディターでの表示が実際の名前です。例えば、PRE FX セクションの Comp の場合、SPEED ノブは Sensitivity パラメーターを、INTENSITY ノブは Level パラメーターをコントロールすることになります。

1. 各セクションを有効にするときは、それぞれの**ON/OFF ボタン**を押してランプを点灯します。各セクションを無効にするときは、ON/OFF ボタンをもう一度押してランプを消灯します。

2. **EQUALIZER セクション**の 3 つのノブで、低域、中域、高域周波数を調節します。初期の設定に戻すときは、それぞれのノブを押します。

   WARNING: 周波数の設定を極端に高くすると、音量が大きくなる場合がありますので注意してください

3. SV-1 には、PRE FX としてストンプボックス・シミュレーターが組み込まれています。これは、アンプ入力の前に挿入されたペダル・エフェクトをシミュレートしたものです。
   PRE FX セクションの **TYPE ノブ**を回して、ペダル・タイプを選択します。

   VOX Wah を選択したときは、**Auto/Pedal ボタン**を押して、オート・ワウとペダル・ワウを切り替えます。

   オート・ワウ（ランプが消灯）：鍵盤を弾く強さによってフィルターが自動的に変化します。
   ペダル・ワウ（ランプが点灯）：ペダル端子 2 に接続したエクスプレッション・ペダルでフィルターの開き具合をコントロールします。ペダルを接続していない場合は、フィルターは固定されます。
   エクスプレッション・ペダルを使用してワウをコントロールする場合は、あらかじめエクスプレッション・ペダルの感度を調整することをお勧めします。詳しくは「ペダルのキャリブレーション」（p.29）を参照してください。

   U-Vibe、Tremolo のモジュレーション・スピードを変更する場合は **SPEED ノブ**を、モジュレーションの強さを変更する場合は **INTENSITY ノブ**を使用します。初期の設定に戻すときは、それぞれのノブを押します。

   WARNING: Boost は、音量の変化が大きいので、音が大きくなりすぎないように注意してください。

TYPE ノブ	SPEED ノブ	INTENSITY ノブ
Comp	Sens（感度）	Level（出力）
Boost	Drive（ドライブ）	Level（出力）
U-Vibe	Speed（スピード）	Depth（効果）
Vibrato	Type（スピード）	Intensity（強さ）
Tremolo	Speed（スピード）	Depth（効果）
VOX Wah	Manual*（マニュアル）	タイプ（0: V-847、10: V-848）

*Manual: Auto/Pedal ボタンを点灯（ペダル・ワウ）したときは、接続したエクスプレッション・ペダルで調整。

4. SV-1 には､アンプ･シミュレーターが組み込まれており､複数のヴィンテージまたはモダン･アンプを選択することができます。
AMP MODEL セクションの **TYPE ノブ**を回し、アンプ・モデルを選択します。
DRIVE ノブを回すと、プリアンプのボリューム（オーバードライブのサチュレーション）を変更することができます。初期の設定に戻すときは、DRIVE ノブを押します。

NOTE: DRIVE ノブを上げすぎると、音が歪むことがあります。この場合は、設定を小さくしてください。

TYPE ノブ	DRIVE ノブ
Amp 1（Clean Combo）	PreVol（プリ・ボリューム）
Amp 2（California）	PreVol（プリ・ボリューム）
Amp 3（Tweed）	PreVol（プリ・ボリューム）
Amp 4（AC30）	PreVol（プリ・ボリューム）
Amp 5（Modded OD）	PreVol（プリ・ボリューム）
Organ Amp（Korg OD/HG）	Drive（ドライブ）

HINT: ON/OFF ボタンを押して AMP MODEL セクションをオフにすると、真空管を含んだアンプ・シミュレーターの全回路をバイパスします。

5. **MODULATION FXセクション**の**TYPEノブ**を回すと､各種モジュレーション･タイプを選択することができます。

Rotary（ロータリー）を選択した場合、**Slow/Fast ボタン**でローターの回転スピードを変えることができます。また、モジュレーション・スピード（ロータリー・スピーカーの場合はホーンの回転）を変更する場合は **SPEED ノブ**を、強さ（ロータリー・スピーカーの場合はホーンの加速度）を変更する場合は **INTENSITY ノブ**を使用します。初期の設定に戻すときは、それぞれのノブを押します。

HINT: Rotary を選択し、ペダル端子 1 にフット・スイッチを接続しているときは、ペダルを使ってローターの回転スピード（低速または高速）をコントロールすることができます。

TYPE ノブ	SPEED ノブ	INTENSITY ノブ
Chorus 1	Speed（スピード）	Depth（効果）
Chorus 2	Speed（スピード）	Intensity（強さ）
Phaser 1	Speed（スピード）	Depth（効果）
Phaser 2	Speed（スピード）	カラー（0: タイプ 1、10: タイプ 2）
Flanger	Speed（スピード）	Depth（効果）
Rotary	ホーンの回転スピード	ホーンの加速度

6. リバーブ、エコー、ディレイ･エフェクトを変更するときは、**REVERB/DELAY セクションの TYPE ノブ**を回します。
DEPTH ノブで、エフェクトのミックス量を変更することができます。初期の設定に戻すときは、DEPTH ノブを押します。

St. Delay（ステレオ・ディレイ）を選択した場合、**TAP ボタン**を 4 回押すと、押した間隔でディレイ・タイムを入力することができます。ランプの点滅によって、入力したテンポを視覚的に確認できます。テンポが正しく入力できなかったときは、ランプは点滅しません。

TYPE ノブ	DEPTH ノブの設定内容
Room	Mix（ミックス量）
Plate	Mix（ミックス量）
Hall	Mix（ミックス量）
Spring	Mix（ミックス量）
Tape Echo	Mix（ミックス量）
St. Delay	Mix（ミックス量）

7. エディットした音色は、フェイバリットとして保存することをお勧めします。詳しくは、「フェイバリットの保存」(p.34)を参照してください。
また、SV-1 エディターでは、音色をサウンドまたはフェイバリットとして、本体またはコンピューターへ保存することができます。

NOTE: エディットした音色を保存する前に他の音色を呼び出すと、せっかく調整したパラメーターが初期値に戻ります。大切な音色は、本体またはコンピューターへ保存してください。

設定を初期値に戻す

ノブを回してパラメーターの値を変更したときは、同じノブを押すとパラメーターが初期値に戻ります。

エディット中にエフェクトや音色を切り替える

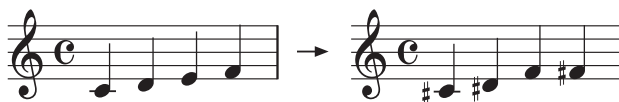
エフェクトのパラメーターを変更した後、同じセクション内でエフェクト・タイプを切り替えても、先の変更内容は保存されています。つまり、切り替える前のエフェクト・タイプを再度選ぶと、変更内容はそのまま呼び出されます（その後、設定したパラメーターを初期の設定に戻したいときは、該当するノブを押します)。

一方、音色のエディット中に、他のサウンドまたはフェイバリットへ切り替えると、エディットしたパラメーターは初期の設定に戻り、変更内容は失われます。

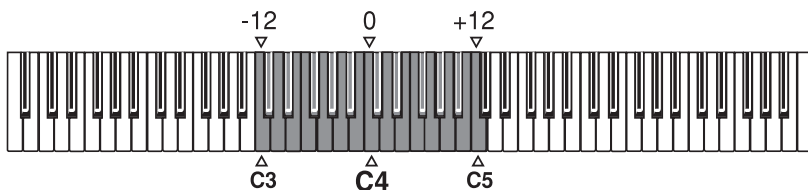
高度な設定

トランスポーズ

キーを変える（移調する）ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで、他の楽器や歌に演奏を合わせせることができます。これがトランスポーズ機能です。

24 半音の範囲でずらすことができます。下図の左の楽譜を 1 半音上げた状態で弾くと、右の楽譜を弾いたかのように聞こえます。

トランスポーズが設定されている場合は、TRANSPOSE ボタンのランプが点灯しています。トランスポーズされていない場合は、ランプは消灯しています。

1. TRANSPOSE ボタンを 3 秒間押します。
TRANSPOSE ボタンのランプが点滅します。

2. ランプの点滅中に、鍵盤でトランスポーズ先のキーを押します。
トランスポーズが設定され、ランプが点灯します。

鍵盤	キーの高さ
C3 ～ B3	12 ～ 1 半音下げる
C4（中央の C）	標準（トランスポーズしない）
C#4 ～ C5	1 ～ 12 半音上げる

NOTE: ランプの点滅中に鍵盤を押さないで 4 秒経過すると、トランスポーズは設定されず、ランプが消灯します。

3. 元のキーに戻すときは、TRANSPOSE ボタンを押します。
ランプが消灯します。

NOTE: 本機の電源を切ると、トランスポーズは解除されます。

ピッチ・コントロール

SV-1 の基準ピッチ（音の高さ）を調整します。基準ピッチを調整できると、簡単に調律できない楽器と一緒に演奏するときに便利です。

1. FUNCTION ボタンを押します。
FUNCTION ボタンのランプが点滅します。

2. EQUALIZER セクションの TREBLE ノブを回して、ピッチを調整します。
初期設定では、SV-1 の基準ピッチは、A = 440Hz に設定されています。TREBLE ノブの目盛りごとに、ピッチを 0.25Hz ずつ上下することができます。
ピッチに合わせて TREBLE ノブの周囲のランプが点灯します。

FUNCTION ボタンのランプが点滅しているときに TREBLE ノブを押すと、基準ピッチが A = 440Hz に戻ります。

3. FUNCTION ボタンを押します。
基準ピッチが確定され、FUNCTION ボタンのランプが消灯します。

NOTE: 本機の電源を切ると、基準ピッチの設定は解除されます。

HINT: SV-1 エディターの WRITE GLOBAL ボタンで、基準ピッチを保存することができます。

チューニング・カーブを選ぶ

チューニング・カーブを選びます。アコースティック・ピアノやヴィンテージ・エレクトリック・ピアノをより忠実に再現するために、その楽器に合ったチューニングが行えます。

1. FUNCTION ボタンを押します。
FUNCTION ボタンのランプが点滅します。

2. FAVORITES ボタンでチューニング・カーブを選びます。

FAVORITES ボタン	チューニング・カーブ
1	平均律
2	Grand Piano 1 Stretch（グランド・ピアノ 1 ストレッチ・チューニング）
3	Grand Piano 2 Stretch（グランド・ピアノ 2 ストレッチ・チューニング）
4	Electric Piano Stretch（エレクトリック・ピアノ・ストレッチ・チューニング）
5	Electric Grand Stretch（エレクトリック・グランド・ピアノ・ストレッチ・チューニング）
6	Upright Stretch（アップライト・ピアノ・ストレッチ・チューニング）
7	User #1*: Detuned（ユーザー #1: デチューン）
8	User #2*（ユーザー #2）

*User #1、User #2: チューニング・カーブは SV-1 エディターで設定します。

3. FUNCTION ボタンを押します。
チューニング・カーブが確定され、FUNCTION ボタンのランプが消灯します。

HINT: チューニング・カーブは、フェイバリットと一緒に保存することができます。また、SV-1 エディターで Write Current Preset コマンドを選択すると、チューニング・カーブをプ個々のプリセット・サウンドやフェイバリットに保存することができます。

鍵盤のタッチ・コントロールを変更する

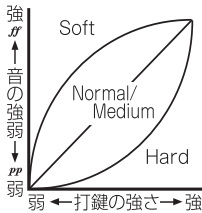
鍵盤を弾く強さによる音量変化の度合いを設定します。

1. TOUCH ボタンを押します。
TOUCH ボタンのランプが点滅します。

2. FAVORITES ボタンで、タッチ・カーブを選びます。

FAVORITES ボタン	タッチ・カーブ	
1	Normal（標準）	普通のピアノ・タッチ
2	Soft 1（ソフト 1）	弱く弾いても強音が出せるタッチ
3	Soft 2（ソフト 2）	
4	Medium 1（ミディアム 1）	普通の強さで弾いても強音が出せるタッチ
5	Medium 2（ミディアム 2）	
6	Hard 1（ハード 1）	強く弾かないと強音が出せないタッチ
7	Hard 2（ハード 2）	
8	Fixed*（固定）	ダイナミクスは一定

*Fixed: ダイナミクスは SV-1 エディターで設定します。

タッチ・カーブは以下の図のようになります。

3. TOUCH ボタンを押します。
タッチ・カーブが確定され、TOUCH ボタンのランプが消灯します。

HINT: タッチ・コントロールは、フェイバリットと一緒に保存することができます。また、SV-1 エディターの WRITE CURRENT PRESET ボタンで、タッチ・コントロールを個々のサウンドやフェイバリットに保存することができます。

ペダルのキャリブレーション

ダンパー端子、ペダル端子 1、2 に接続した、各ペダルの感度を調整します。ペダルのキャリブレーションを実行すると、ペダルの極性やペダルの可変範囲を認識することができます。

1. キャリブレーションを行うすべてのペダルを、SV-1 に接続します。
   ダンパー端子には付属のコルグ DS-2H ダンパー・ペダルを、ペダル端子 1 にはフット・スイッチ式のペダルを接続してください。ペダル端子 2 に接続するものは、フット・スイッチでもエクスプレッション・ペダルでも構いません。

2. エクスプレッション･ペダルの位置を､最小値(手前に戻しきる)に設定します。

3. SV-1 の電源を切ります。

4. Auto/Pedal ボタンを押しながら､SV-1 の電源を入れます。

5. Auto/Pedal ボタンのランプが点滅を始めたら､ボタンから指を離し､もう一度 Auto/Pedal ボタンを押します。
   キャリブレーション・モードに入り、Auto/Pedal ボタンが点灯します。

   HINT: Auto/Pedal のランプが点滅を始めてから、何もしないで数秒経過すると、Auto/Pedal のランプが消灯して演奏できる状態になります。

6. ペダル端子 1 に接続した､フット･スイッチのキャリブレーションを行います。
   ペダルを完全に踏み込んでから、足を離します。

   フット・スイッチのキャリブレーションが終了すると、FAVORITES ボタン 1 が点灯します。

7. ペダル端子 2 に接続した､ペダルのキャリブレーションを行います。
   接続しているペダルがフット･スイッチかエクスプレッション･ペダルかによって､手順は以下のように異なります。
   ・**フット・スイッチ** : スイッチを完全に踏み込んでから、足を離します。
   ・**エクスプレッション・ペダル** : ペダルの位置を最大値（奥に踏み込む）に設定し、次に最小値に戻します。

   ペダルのキャリブレーションが終了すると、FAVORITES ボタン 2 が点灯します。

8. ダンパー端子に接続した、ダンパー・ペダルのキャリブレーションを行います。
ペダルを完全に踏み込んでから、足を離します。

9. キャリブレーションを終了します。

- **3 つのペダルに対してキャリブレーションを行った場合**
  自動的にキャリブレーション・モードを終了（FAVORITES ボタン、Auto/Pedal のランプが消灯）し、演奏できる状態になります。
- **1 つまたは 2 つのペダルに対してキャリブレーションを行った場合**
  Auto/Pedal ボタンを押します。
  キャリブレーション・モードが終了（FAVORITES ボタン、Auto/Pedal のランプが消灯）し、演奏できる状態になります。

RX ノイズのレベルの調整

RX ノイズとは、アコースティック・ピアノやヴィンテージ・エレクトリック・ピアノが発音する際の、ダンパーやハンマー等の機構部品が動作するときに聞こえるかすかな物理音をシミュレートしたものです。

この RX ノイズを弦等の直接音に加えることで、より忠実な音色を実現しました。

1. FUNCTION ボタンを押します。
FUNCTION ボタンが点滅します。選んだ音色に RX ノイズが含まれている場合は、EQUALIZER セクションの BASS ノブの周囲にあるランプの 1 つが点滅します。

NOTE: RX ノイズはすべての音色に含まれるわけではありません。「サウンド・リスト」(p.18)、「フェイバリット・リスト」(p.20) を参照してください。

2. BASS ノブで RX ノイズのレベルを調整します。
BASS ノブを押すと、中央の値に戻ります。初期の設定に戻すときは、同じサウンドまたはフェイバリットをもう一度選択してください。

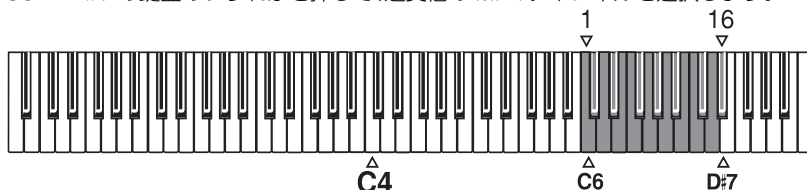
3. FUNCTION ボタンを押します。
レベルが確定され、FUNCTION ボタンが消灯します。

HINT: RX ノイズのレベルは、フェイバリットと一緒に保存することができます。また、SV-1 エディターの WRITE CURRENT PRESET ボタンで、RX ノイズのレベルを個々のサウンドやフェイバリットに保存することができます。

MIDI チャンネルの設定

SV-1 の MIDI チャンネルを設定します。MIDI チャンネルは、SV-1 が別の楽器やコンピューターとデータをやり取りするときに使用されます。

1. FUNCTION ボタンを押します。
FUNCTION ボタンのランプが点滅します。

2. C6 ～ D#7 の鍵盤のいずれかを押して、送受信の MIDI チャンネルを選択します。

鍵盤	チャンネル	鍵盤	チャンネル	鍵盤	チャンネル	鍵盤	チャンネル
C6	1	E6	5	G#6	9	C7	13
C#6	2	F6	6	A6	10	C#7	14
D6	3	F#6	7	A#6	11	D7	15
D#6	4	G6	8	B6	12	D#7	16

3. FUNCTION ボタンを押します。
MIDI チャンネルが設定され、FUNCTION ボタンのランプが消灯します。

NOTE: 本機の電源を切ると、MIDI チャンネルは 1 になります。

HINT: SV-1 エディターの WRITE GLOBAL ボタンで、MIDI チャンネルを保存することができます。

MIDI の音が止まらないとき

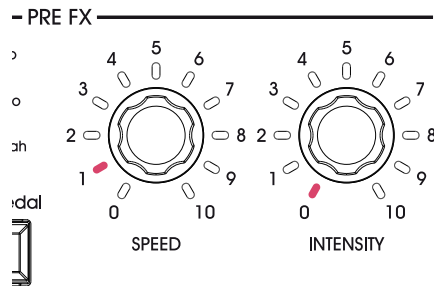
MIDI 通信で MIDI ノートの発音が止まらなくなった場合は、EQUALIZER セクションの ON/OFF ボタンを押したまま、音が止まるまで待ってください。これは一般に **MIDI パニック**と言われます。

オペレーティング・システムのバージョン

SV-1 のオペレーティング・システムのバージョンを確認することができます。

1. SV-1 の電源を入れます。

2. PRE-FX セクションの、SPEED ノブと INTENSITY ノブを同時に押します。
オペレーティング・システムのバージョンは「n1.n2」で示され、例えば、「1.0」は「メジャー・リリース 1、マイナー・バージョン 0」を意味します。

SPEED ノブの周りのランプの点灯は最初の「n1」を、**INTENSITY ノブ**の周りのランプの点灯は 2 番目の「n2」を表します。オペレーティング・システムのバージョン「1.0」は、以下のようになります。」

数秒経過すると、オペレーディング・システムのバージョン表示が終わり、元の状態に戻ります。

音色を保存する

フェイバリットの保存

エディットした音色が気に入ったときは、それをフェイバリットとして保存することができます。

NOTE: エディットした音色を保存する前に他の音色を呼び出したり、電源を切ったりすると、せっかく調整したパラメーターが初期値に戻ります。大切な音色は保存してください。

1. 保存先とするFAVORITESボタンを1つ選び、そのボタンを押したまま、ランプが点滅し始めるまで待ちます。

NOTE: ここで指定した保存先に、フェイバリットが上書きされますので、大切な音色を消去しないように注意してください。

HINT: 保存を中止するときは、どのボタンも押さずに、ボタンのランプが消灯するまで待ちます。

2. 手順1で選んだボタンをもう一度押します。
現在の設定がフェイバリットとして保存され、FAVORITES ボタンのランプが点灯します。

工場出荷時の設定に戻す

SV-1 では、サウンドやフェイバリットの各設定、グローバル設定などを、工場出荷時の状態に戻すことができます。

1. SV-1 の電源を切ります。

2. FUNCTION ボタンを押しながら、SV-1 の電源を入れます。

3. FUNCTION ボタンのランプが点滅を始めたら、FUNCTION ボタンから指を離します。
HINT: 工場出荷時の設定に戻さないときは、そのままランプが消灯するのを待ちます。

4. FUNCTION ボタンの点滅中に、FUNCTION ボタンをもう一度押します。
工場出荷時の設定に戻り、FUNCTION ボタンのランプが消灯します。

故障かな？とお思いになる前に

故障の疑いがある場合は、以下の項目をまず最初にチェックしてください。問題が解決しないときは、コルグ・サービス・センターへお問い合わせください。

症状	対策	ページ
電源が入らない	電源コードが損傷していないこと、電源コードが SV-1 とコンセントに正しく接続されていることを確認してください。	12
音が出ない	SV-1 のボリュームが 0 になっていないかを確認してください。 0 になっていたら、適切なレベルまでボリュームをあげてください。	7
	ローカル・オフに設定されていないことを確認してください。 LOCAL OFF ボタンのランプが点灯している場合は、ボタンを押してランプを消灯します。	10
	ヘッドホンから音が出ないときは、ヘッドホン端子に正しく接続されていることを確認してください。	12
	ノブの設定が以下のようになっていないことを確認してください。 • PRE-FX セクションの Comp: INTENSITY ノブ = 0 • PRE-FX セクションの Boost: INTENSITY ノブ = 0 • AMP MODEL セクション : DRIVE ノブ = 0	21
	真空管が「ウォームアップ中」の可能性もあります。しばらくお待ちください。本物のアナログ真空管を使用しているので、これは故障ではありません。	7
音がとぎれることがある	XLR 端子で接続しているときは、両方の端子が接続されていることを確認してください。XLR 端子はモノラルで出力することができません。	14
音が小さい	真空管が消耗した可能性があります。最寄りのコルグ・サービス・センターにお問い合わせください。	7
音声にノイズが混ざっている	コードが長すぎる、ステージ上の別のデバイスの干渉を受けている、などが考えられます。XLR 端子を使用してください。	14
	アンプ・モデルを使用しているときは、アンプ回路の自然なノイズが聞こえることがあります。設定を確認してください。	8

仕様

仕様	SV-1（73/88）
鍵盤	SV-1 73: 73 鍵 SV-1 88: 88 鍵 リアル・ウェイテッド・ハンマー・アクション 3（RH3）鍵盤
タッチ・コントロール	8 種類のタッチ・カーブ
ピッチ	トランスポーズ、ファイン・チューニング、チューニング・カーブ
音源	EDS（Enhanced Definition Synthesis）
同時発音数	80（最大）
サウンド	36（6 サウンド・タイプ × 6 バリエーション）
E. Piano 1	Tine EP/Amp、Tine EP/Phaser、Tremolo EP、Dyno EP、VPM Piano、VPM Tine
E. Piano 2	Reed EP 1、Reed EP 2、Electric Grand、SG-1D Piano、80's Piano、MIDI Grand
Clav	Clav AC、Clav BC、Clav BD、Clav AD、ElectroPno、ElectraPno
Piano	Grand Piano 1、Grand Piano 2、Mono Grand、Upright、Piano/Strings、Piano/Pad
Organ	Click Tonewheel、Jazz Tonewheel、Full Tonewheel、Console Organ、Italian Combo、Vox Combo
Other	Full Strings、Tape Strings、70s Strings、Choir、Synth Brass、Sharp Brass
フェイバリット	8（FAVORITE ボタンで選択）
エフェクト	5 つのエフェクト＋ 1 つのトータル・エフェクト
Equalizer	BASS、MID、TREBLE
Pre FX	Comp、Boost、U-Vibe、Vibrato、Tremolo、VOX Wah
Amp Model	Amp 1 ～ 5、Organ Amp（それぞれキャビネット・モデルを含む） Valve Reactor 技術 – 真空管 12AX7（ECC83）
Modulation FX	Chorus 1、Chorus 2、Phaser 1、Phaser 2、Flanger、Rotary
Reverb/Delay	Room、Plate、Hall、Spring、Tape Echo、St. Delay（Stereo Delay）
トータル FX	ステレオ・マスタリング・リミッター、ステレオ・リミッター
エフェクト･コントローラー	
Equalizer	1 ボタン : ON/OFF 3 ノブ : BASS、MID、TREBLE
Pre FX	2 ボタン : ON/OFF、Auto/Pedal（VOX Wah 用） 3 ノブ : TYPE、SPEED、INTENSITY
Amp Model	1 ボタン : ON/OFF 2 ノブ : TYPE、DRIVE
Modulation FX	2 ボタン : ON/OFF、Slow/Fast（Rotary 用） 3 ノブ : TYPE、SPEED、INTENSITY

仕様	SV-1（73/88）
REVERB/DELAY	2 ボタン : ON/OFF、TAP（St. Delay 用） 2 ノブ : TYPE、DEPTH
その他のコントロール	4 ボタン、1 ボリューム
ボタン	TRANSPOSE、LOCAL OFF、TOUCH、FUNCTION デモ・ソング = TRANSPOSE + LOCAL OFF
ボリューム	MASTER VOLUME ノブ
端子	
MIDI	IN / OUT
ヘッドホン	1（フロント・パネル上）
オーディオ・出力	L、R（2 × XLR、バランス）
	L/MONO、R (2 × 1/4”端子、アンバランス)
入力	L/MONO、R
コンピューター	USB タイプ B 端子（MIDI インターフェイスと兼用） USB 1.1 対応
ダンパー・ペダル	コルグ DS-2H 用
ペダル 1	フット・スイッチ用（例 : コルグ PS-1）
ペダル 2	エクスプレッション / ボリューム用（例 : コルグ XVP-10 または EXP-2）、またはフット・スイッチ用（例 : コルグ PS-1）
デモ・ソング	36 曲（サウンドごとに各 1 曲）
電源	AC100 〜 240V、50/60Hz
電力消費	15 W
外形寸法（W x D x H）	SV-1 73: 1143 × 347 × 157 mm SV-1 88: 1356 × 347 × 157 mm 譜面立てを除く
質量	SV-1 73: 17.5 kg SV-1 88: 20.55 kg 譜面立てを除く
付属品	電源コード、取扱説明書、アクセサリー・ディスク、譜面立て、ダンパー・ペダル（コルグ DS-2H）
オプション（別売り）	XVP-10 エクスプレッション / ボリューム・ペダル EXP-2 フット・コントローラー PS-1 ペダル・スイッチ

* 仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。

[ステージ・ヴィンテージ・ピアノ]
Model: SV-1

MIDIインプリメンテーション・チャート

Date: 2009.6.18
Ver.: 1.00

ファンクション…		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1–16	1 1–16	 記憶される
モード	電源ON時 メッセージ 代用	3 × **************	3 ×	
ノート ナンバー	音域	16–112 / 9–127 **************	0–127 0–127	16–112 (SV-1 73), 9–120 (SV-1 88) 全音域を発音できない音色あり
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9n, V=1–127 ○ 8n, V=0–127	○ 9n, V=1–127 ○ 8n, V=0–127	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド		×	○	
コントロール チェンジ	1, 2 6, 38 7, 11 64, 66, 67 70–75	× × ○ ○ ×	○ ○ ○ ○ ○	モジュレーション、ブレス・コントローラー *1 データ・エントリー ボリューム, エクスプレッション ダンパー, ソステヌート, ソフト *2 サウンド (バリエーション、レゾナンス、リリース、アタック、カットオフ、ディケイ)

	76–78	×	○	ビブラート(レート、デプス、ディレイ)
	91	×	○	リバーブ/ディレイ・センド
	98, 99, 100, 101	×	○	NRPN (LSB, MSB), RPN (LSB, MSB)
	102–107	○	○	エフェクト・オン/オフ ＊3
プログラムチェンジ		○ 0–43	○ 0–43	＊4
	設定可能範囲	**************	0–43	
システム・エクスクルーシブ		○	○	＊5
コモン	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアルタイム	クロック	×	×	
	コマンド	×	×	
その他	ローカル ON／OFF	×	○	
	オール・ノート・オフ	×	○ (123–124)	
	アクティブ・センシング	○	○	
	リセット	×	×	

備考

＊1: ブレス・コントローラーは、VOX Wah選択時のペダル・ワウで使用
＊2: ソステヌートは、ロータリー選択時のロータリー・スロー/ファーストで使用
＊3: EQ On/Off, PreFX On/Off, Amp+Cabinet On/Off, MOD On/Off, REV/DLY On/Off, Total FX On/Off
＊4: プリセット・サウンド...Program Change 0–35, フェイバリット・サウンド...Program Change 36–43
＊5: コルグ・エクスクルーシブ以外にインクワイアリー・メッセージに対応

モード1: オムニ・オン、ポリ　　モード2: オムニ・オン、モノ　　○: あり
モード3: オムニ・オフ、ポリ　　モード4: オムニ・オフ、モノ　　×: なし

MIDI Implementationの配布については、コルグ・ホームページを確認してください。

保証規定(必ずお読みください)

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類(ヘッドホンなど)は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より1ケ年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有料修理となります。
   - ・消耗部品(電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど)の交換。
   - ・お取扱い方法が不適当のために生じた故障。
   - ・天災(火災、浸水等)によって生じた故障。
   - ・故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
   - ・不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
   - ・保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
   - ・本保証書の提示がない場合。

   尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3ケ月以内に限り無償修理いたします。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、サービス・センターまでお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることがありますので、あらかじめサービス・センターへご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグSV-1　**保証書**

本保証書は、上記の保証規定により無償修理をお約束するものです。

お買い上げ日　　　年　　月　　日

販売店名

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路などのように機能維持のために必要な部品)の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

修理についてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です
This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

お客様相談窓口　TEL 03(5355)5056

● サービス・センター:
〒168-0073東京都杉並区下高井戸 1-15-12
TEL 03(5355)3537　　FAX 03(5355)4470

株式会社コルグ
本社:〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2　http://www.korg.co.jp/